

1 区学習状況調査の結果から

		2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
国語	強み	4観点で、目標値を上回っている。	2観点で、目標値を上回っている。		全観点で、目標値を上回っている。	全観点で、目標値を上回っている。
	弱み	「話す・聞く能力」が目標値より0.4ポイント低い。	3観点で、目標値を下回っている。	全観点で、目標値を下回っている。		
算数	強み	3観点で、目標値を上回っている。				
	弱み		全観点で、目標値を下回っている。	全観点で、目標値を下回っている。	全観点で、目標値を下回っている。	全観点で、目標値を下回っている。
理科	強み			3観点で、目標値を上回っている。	「観察・実験の技能」が目標値を上回っている。	
	弱み				3観点で、目標値を下回っている。	全観点で、目標値を下回っている。
社会	強み				2観点で、目標値を上回っている。	2観点で、目標値を上回っている。
	弱み			全観点で、目標値を下回っている。	2観点で、目標値を下回っている。	2観点で、目標値を下回っている。
意識調査より 全体	▼週あたりの家庭学習の日数では、全学年が全国平均を下回っている。 ○家で授業の予習・復習をする児童の割合は、5年生・6年生が高い。 ○テストのやり直しは、2年生・6年生が高い。○ノートは、5年生・6年生の意識が高い。 ※（ ）内の数字は全国の%					
	家で週に何日ぐらい勉強しますか（ほぼ毎日）					
		62.2% (58.7%)	33.7% (53.1%)	49.4% (55.9%)	51.3% (60.0%)	59.1% (62.8%)
	家で、授業の予習や、復習をしていますか（いつも）					
			14.0% (20.4%)	11.5% (17.4%)	17.5% (18.8%)	18.2% (18.9%)
	テストで間違えた問題は後でやり直していますか（いつもやり直している）					
		48.8% (55.9%)	39.5% (52.4%)	39.1% (45.2%)	38.8% (46.2%)	42.0% (43.3%)
	ノートは丁寧に書いていますか、工夫していますか（いつもそうしている）					
		29.1% (34.4%)	19.5% (34.1%)	40.0% (36.1%)	31.8% (32.7%)	
各学年	○自己認識4項目 ▼社会性2項目 ▼学級環境2項目 ▼生活・学習習慣 全項目	○自己認識4項目 ○社会性2項目 ○学級環境全項目 ▼生活・学習習慣	▼自己認識全項目 ▼社会性全項目 ▼学級環境全項目 ▼生活・学習習慣 全項目		○自己認識2項目 ○社会性3項目 ○学級環境3項目 ○生活習慣 ▼学習習慣	○自己認識全項目 ○社会性2項目 ○学級環境全項目 ○生活・学習週間全項目

2 調査結果のまとめと改善策

調査結果のまとめ	改善策
① 平均正答率は、全学年・全教科で全国平均を下回った。特に、4年生の学力はどの教科も墨田区の平均正答率を5ポイント以上、下回っている。	① 学習に向かう意識・意欲を高め、集中して学習に取り組み、自力解決をすることで達成感や成就感を味わい、学習の楽しさを実感できるようにする。
② 国語では、5・6年生の学力が向上した。	② 全学年を通して国語力に着目し、話をしっかり聞く活動や、文をじっくりと読む活動の時間を確保する。
③ 社会は、5・6年生で目標値との差が少ない。	③ 一昨年度の校内研究の成果としてあった、課題把握、自力解決、検討、まとめという基本的な流れの理解と定着が今年度も見られた。今後も研修等を通して継続・改善を行っていく。
④ 算数では、3～6学年で、全観点に課題があり、6年生の「関心・意欲・態度」が低くなっている。	④ 導入場面では、児童が興味・関心を引く授業展開をするとともに一人一人の課題に沿った支援を講じる。少人数指導では、個に応じた指導の充実を図るとともに自力解決力の育成を図る。
⑤ 昨年度の課題であった理科の学習で「観察・実技の技能」の伸びがみられた。	⑤ 理科室の整備を行い、すべての児童が実験や観察に取り組めるようにする。また、理科学習を楽しくするために理科支援員を活用する。
⑥ 意識調査から、家庭学習習慣の定着率が低い。	⑥ 家庭学習習慣をより一層推進するため、保護者会などで啓発を行う。
⑦ 学習に対しての達成感や成就感が低く、進んで学習しようとする意欲・態度が弱い。	⑦ 放課後学習教室を活用し、個の能力に応じた課題を設定し、基礎基本の学習の定着を図ることで、「できた」「分かった」という達成感や成就感を味わえるようにする。
⑧ 校内研究で取り組んでいる外国語活動を通して、児童の興味関心が育っている。	⑧ 校内研究で成果があった指導方法等を他教科にも生かし、学習への興味関心を高めていく。

3 後期に重点的に取り組むべき課題

<p>① 学習の基礎基本の定着 授業と家庭学習の連携を強化し、「ふりかえりシート」を家庭学習で活用することで学習内容の定着を図る。後期に2回「家庭学習週間」を設定し、家庭学習の習慣化を図る。保護者会、通知での周知に加え、ホームページ等においても周知を行い、保護者の理解と協力を得る。</p>
<p>② 学習の積み重ねやくり返し取り組んだ経過の見える化 各学年の課題に応じて現単元の内容に特化して朝学習や放課後学習教室を中心に「ふりかえりシート」及び「東京ベーシック・ドリル」を活用する。「ふりかえりシート」等は児童一人一人の「学習ファイル」に取りまとめ、苦手な課題や自己の学習の振り返り、学習の積み重ねを質的量的に実感できるようにする。</p>
<p>③ 理科、算数、社会におけるふりかえり月間の取組 理科では、導入・展開・まとめ等においてICTの活用率を20%向上し、学習意欲を高め、学習内容の定着を図る。また、算数、社会では、学年の課題に応じた教材を準備し、個の実態に応じた指導を展開する。</p>
<p>④ 校内研究の充実 外国語活動・英語科を中心に、後期に2回、研究授業を実施する。児童相互の学び合いや発表の機会を充実し、コミュニケーションを豊かにする。</p>
<p>⑤ 教員の指導力の向上 校内OJTを年12回以上実施し、教員相互の授業観察、研修の機会を充実する。各教科等においては「二寺スタンダード」に基づき、一単位時間の中でねらいと習得すべき知識・技能等を明確にし、学習のふりかえりを徹底する。アイチェックの活用についての校内研修を実施し、学校全体で課題を把握し、学年学級経営に生かす。</p>
<p>⑥ 多様な学習、体験的な学習の充実 出前授業や講師を招聘した体験的な学習を各学年において年2回以上実施し、自力解決的な学習の一層の充実を図る。</p>